

本部だより 2



6月7日に結城特別支援学校に行きました。県内の知的支援学校の集まりです。PTA総会のようなものをしてきたわけです。今年は40周年になるのですよ。支援学校の集まりが出来て、まだ40年です。私が生まれたときは、まだなかったということです。

記念品については、学校と相談して子どもたちのために秋くらいに決めていこうと思います。

そして、津軽三味線演奏家 踊 正太郎さんの公演でした。石岡出身の方です。先天性の全盲で、高等部から支援学校に通いました。でも、彼は大好きな祖母の民謡で育ち、景品でもらった三味線との運命の出会いをしていたのでした。盲学校は、鍼灸師になることが前提の学校でした。演奏家を目指す彼は、稽古のため全寮制を断り石岡から水戸まで家族の協力を得て通ったのです。凄いですね。一握りの天才のお話ではありますが、その努力と苦労は想像を絶する大変なものでした。また、心に残った言葉は、障がいは「不幸ではないが、不便なことがたくさんある」と表現されたことです。なるほど。

生の演奏はまるでミラクルを見ているようでした。手の動きが見えないのです。演奏の迫力とは真逆のソフトな語り口に、すっかり魅了されました。



次に、6月12日には県内の特別支援学校（盲・肢体など）全体の集まりに茨城大学教育学部附属特別支援学校に行ってきました。大学の先生が校長、という感じですね。一方的に話を聞く講話ではなく、グループワークというものを体験してきました。面白かったですよ。理事会で出来るといいなあ。講師は昨年までの校長、正保 晴彦先生（茨城大学大学院教育学研究科教授）です。【・かかわる・理解する・表現する】ということが、人間関係を改善するために必要な三大要素だそうです。知識はネットであふれているから、モノの価値は下がっている世の中。モノを使ってコトを起こす発想が必要なのです。どういう取り組みでどんなことをするのか。その体験で得たものは身に付いていく、ということでグループワークに取り組んでいらっしゃいます。情報の受け手から、発信することの楽しさを、という先生の言葉。参加の皆さんとやり取りして楽しいと思った体験から、ちょっと感じた日でした。

7/14は授業参観・地区懇談・福祉事業所説明会です。是非、ご参加ください。

